

記録的な暑さが多くの業種に影響を与える

4月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

前月から続く記録的な暑さが、多くの業種に影響を与えている様子がうかがえる。製造業、非製造業ともに人手不足感が強まってきており、製造業においては原材料・輸送・燃料の価格の値上げが目立つ一方、一部業種においては年度始め特有の仕事量の減少が見られる。

製造業	食料品		パンは、季節外れの暑さの影響で客足が伸びず売上減少となる。菓子は、4月からの輸送費の値上げが収益を圧迫している。製麺は、気温の上昇に伴い乾麺の荷動きが良好となるが、原材料高により依然として景況感に厳しさが見られる。酒造は、普通酒の落ち込みが大きく売上・収益ともに悪化となる。
	繊維・同製品		桐生織物は、和装織物の夏物関連や催事向けの出荷が活発となってきたもののほか、婦人服地で秋シーズンへの期待感が見られる。ニットは、例年に比べ春夏物の追加注文が少なく売上減少となる。繊維製品は、国内市場が縮小してきている状況にあって、海外市場の開拓を模索している。
	窯業・土石製品		生コンは、高崎市部と八ッ場ダム関連で出荷増となるが、他地域は苦戦。コンクリートブロックは、天候に恵まれたことから受注増となるが、人手不足により生産が追いつかず売上は前年並みにとどまる。砕石は、年度始めということもあり全体的に発注量が減少、燃料やプラント部品価格の値上げにより収益が悪化。
	機械・金属		総じて売上高・収益ともに好転しているが、人手不足感は依然として強い。SUBARU関連は、年度始めの生産調整や新車の燃費や排ガスの検査データ改ざんに関する調査結果が発表された影響等もあり、売上がやや減少となる。鍍金は、自動車部品関連の受注が減少するものの、売上は前年並みの状況。
	その他の製造業		木材は、販売単価が小幅減少ながら荷動きは変わらず。印刷は、景況感に厳しさが感じられるが、一部に安定した仕事量を確保している組合員も見受けられる。紙加工品は、例年見られる連休前の需要増もなく前年に比べ低調に推移、原材料高に加え輸送費も値上げとなり収益を圧迫している。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、恒例の春の「上州どっと楽市」に35,000人が来場し盛況、新入社員向けの研修講座もスタート。前橋卸団地は、原材料価格の上昇と人手不足に伴う人件費の高騰が引き続き懸念材料となっている。農産物卸は、例年並の出荷状況となり売上も前年同様となる。
	小売業		家電小売は、4月より始まった高崎市の商店リニューアル補助金の影響でエアコンや照明器具の売上が伸びている。中古車オークションは、前月に引き続き成約台数が伸びており好調を維持。生花小売は、入学式や歓迎会需要により前年並みに推移。商店街は、天候に恵まれ各地のイベントで賑わいが見られる。
	サービス業		温泉旅館は、全体的に外国人観光客の入込が順調で売上・収益ともに前年並みで推移、一部地域では人手不足による平日休館の増加が見られる。渋川市域における不動産取引は、上越線沿線地域の人口増加や病院・商業施設の開業等により組合員の景況感に明るさが見られる。自動車整備は、前年並みで推移。
	建設業		建設工事は、新年度の公共工事量の地域間格差が拡大。電気工事は、前年同様、受注量は順調に推移するものの、引き続き人員の確保に苦慮している。塗装工事は、県外からの同業者の進出により厳しい受注環境となっているが、気温の高い日が多く北毛地域での仕事量が増加したことにより前年並みの売上を確保。
	運輸業		前月から続く好天の影響で野菜関連の輸送が大幅増加となるが、全体的には年度始めということもあり、低調な荷動きとなる。小口配送も同様に荷動きが鈍く、これまで好調だった建築資材リース関係や食料品関係が大幅に減少、五月人形輸送は前年並み、医薬品と宅配輸送が若干増加。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 115.8(前月比▲2.4%)「県統計課・3月」
- 住宅着工戸数 957戸(前年同月比▲18.9%)「県建築住宅課・3月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.43倍・有効1.66倍「群馬労働局・3月」
- 大型小売店販売額 204億円(前年同月比▲0.8%)「経済産業省・3月」
- 消費者物価指数(全国) 101.0(前年同月比+1.1%)「総務省統計局・3月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)